

「魚のまち」かまいしの復活を目指して！（派遣2年まとめ）

派遣先 釜石市産業振興部水産課

所属 危機管理室 危機管理課

氏名 藏本 英司

活動期間 平成29年4月25日～平成31年4月24日

① はじめに（釜石とのご縁）

東日本大震災が起こった2011年5月と11月に短期派遣されました。それをきっかけに釜石の皆さまと交流を持つようになり、その後4回プライベートで訪問しました。また、釜石の方が北九州に来た際にはアテンドを行うなどさらに交流を重ねてきました。そして派遣3回目・通算7回目の釜石は2年間の長期派遣となりました。

② 現地での業務

釜石市では、基幹産業である水産業の再生を通じた地域の復興と市民や来訪者が「魚のまち」を実感できるまちづくりを推進するための各施策に取り組んでいます。その中心的な役割を担う産業振興部水産課水産振興係に2年間配属され、「魚のまち」の復活に向けてのソフト部門からの復興に取り組みました。

③ 現地での活動経過

◎ 「魚のまち」かまいしPR

- 平成30年10月に開催された「秋のまるごと味覚フェスティバル」では『水産まつり』として、今回もサンマのお振る舞いを行いました。前年は近年にない不漁で確保するのにハラハラしましたが、今回は回復傾向で一安心。しかも大振りで脂が乗ってと大変美味しい新鮮なサンマを振る舞うことができ、前回以上に市民の皆さまに喜んで頂きました。
- 東日本大震災への復興支援の御礼と岩手県産農林水産物の安全・安心とPRのため、釜石市の姉妹都市・愛知県東海市と連携都市である北九州市のイベントに今回も出展しました。北九州市では釜石サンマのお振る舞いに加え、唐丹町漁協の三陸ワカメPRや特産品の販売を行い、関係部署・団体による「チーム釜石」で食の魅力を情報発信しました。今回はラグビーワールドカップ2019釜石開催に向けた「釜石市ラグビー子ども未来基金」へ、北九州市民の皆さまから約13万円の募金を頂きましたことに、この場をお借りして感謝申し上げます。
- 食イベントの出展もそうですが、実際に味わってもらうことが『論より証拠』で一番効果があります。美味しい魚介類が身近にあることは釜石の大きな魅力です。視察や交流活動で釜石に来てくれた皆さま方との会食では、馴染みのお店に連れて行って、その季節の旬の魚料理を堪能してもらいました。これからも「釜石応援団」として、三陸・釜石の食の魅力発信に協力していきます。



(三陸のサンマは最高に美味しいです！特産品も大好評！！)



(ブリやサバが大漁。絶品の海鮮丼がリーズナブルなお値段で♪)

◎ 漁業の担い手確保・育成・定着に向けて

1年目に、釜石市における漁業担い手確保・育成・定着への対策を総合的に推進し、漁業の発展に資することを目的とする「釜石市漁業担い手育成プロジェクトチーム」を立ち上げ、2年目はさらなる漁業者の確保・育成・定着を目指しました。しかし、住居、生活費、人間関係等々。人が生活し生業を営むのはそう簡単なことではないという現実と直面しました。前年に釜石で新規就業した方々をどう次のステップに進め、“定着”に持って行くことが出来るのか。新たなUIターン者を呼び込むためにはどんな方策が必要なのか。この1年は、関係者で大いに悩みひとつひとつ解決策を探っていくが、多々上手くいかないことも、という難しい年でした。しかしながら、釜石に呼び込むのにハンデとなっていた住宅確保や市独自の担い手支援制度について目途がついた年でもありました。一朝一夕に解決する問題ではない中、この1年は大きな前進だったと確信しています。

釜石市の漁業担い手事業において、第一走者の役割をこの2年で果たしました。次の走者にタスキを渡しますので、この流れを繋げてさらに展開してもらうことを願っております。関係の皆さん、よろしくでした!!!

※岩手の方言では「でした」「ました」は過去形ではなく、現在形の「です」「ます」の意味で使われます(驚)。まずこれに慣れるのが第一歩でした(笑)



(漁業就業フェア in 東京の様子・中学生の漁業体験の一コマ)

◎ その他地域活動

- ・ 私の趣味は『まち・地域づくり』ですのでこの2年、色々と賑やかしました。
- ・ 釜石のお祭り・イベントにボランティアとして参加したり見物したりしました。釜石よいさ、釜石はまゆりトライアスロン国際大会、釜石まつり等々。特に鵜住居復興スタジアムのこけら落としは印象に残る一日でした。
- ・ 2年目は『V i s i t 釜石 f r o m 北Q』と題したプロジェクトを自ら展開し、北Q（北九州市）の知り合いの皆さまに岩手・釜石に『私的に訪問』して頂いて交流や関係を結んで頂きました。その数は2年間トータルでなんと『23名』！その中には、釜石と北九州の食材をコラボしたクリスマスディナーを八幡東区のホテルで開催したり、釜石の根浜海岸で天体観測会の解説員を務めた方がいたり、隣町・大槌町での防災啓発事業実施に向けて展開までも。岩手・釜石の魅力を発信することに一緒に取り組んで頂きました♪



(釜石まつり神輿巡行・鵜住居復興スタジアムこけら落とし)



(釜石×北九州コラボの絶品ディナー・星めぐり広場 in 根浜海岸)

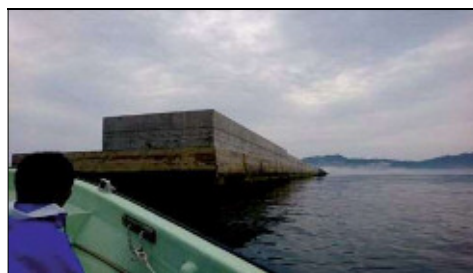
③ 現地での業務で困難であった点や改善すべき点

- ・ サンマは回復しましたが、岩手県三陸沖の主力である鮭は釜石以南の地域は軒並み不漁に見舞われました。さらに長期間の貝毒の発生によりホタテの出荷に長期的な影響が出ました。その代わりに近年あまり獲れていなかったブリやサバが豊漁だったりと、地球規模での海流や海水温の変化という海洋状況にどのように対応していくべきか。今後の水産業を取り巻く状況は非常に難しいものがあります。
- ・ ワークライフバランスについては、年度当初「イクボス宣言」を行ったり北九州市の取組を事例とした研修を開いたりしていましたが、日が経つにつれその掛け声は段々弱くなっていった気がします。復興の総仕上げ期間となり、なかなか大変だとは思いますが、釜石市職員の労務環境・状況は本当に大変です。流行り・

一過性のものとせず、ぜひ浸透して行って貰いたいと切に願います。

④ 活動を通して印象に残ったこと

- ・ 釜石の魅力は、『人の温かさ』と『食の美味さ』。これに尽きます！
- ・ 1年目のレポート最後に書いた2年目の目標は2つあり、①『現場主義』は、船に乗る機会を活かして、海の状況や厳しさを体感しました。他にも会議など様々な機会に参加して、漁業関係者に顔を売り込んで覚えて頂くことも。実際を知り、人間関係の構築がまず一番大事！ですので、これは達成出来たと思います。②防災士資格取得は、残念ながら今回も講習会と日程合わず取得出来ませんでした。。これは北九州市に戻っても引き続きの宿題とします。



(悪天候での漁業体験。ギネスブックに載る釜石湾口防波堤の側で調査も)

⑤ 本市の防災に必要なこと

◎ 常に防災への意識を持つこと

屋外イベント等を行う際には「地震が起きた場合はどう避難するか。」を必ず確認しました。また講演会でも開始前に「地震が起きた場合は落ち着いて行動してください。おさまり次第、係員が誘導します。」といったアナウンスも。派遣中には幸いにも大きな震度の地震は起きませんでした。小さい地震は日常的にありました。『常に防災への意識を持つこと』は非常に大事なことだと実感しました。北九州市でもこの数年、大雨や台風で被害が出ています。この意識を派遣の経験として業務に活かし、また市民の皆さまに幅広く伝えていきます。

⑥ さいごに（2年間を振り返って）

釜石で過ごした2年間、全てが上手くいったわけではありませんし、正直心が折れかけたこともありました。が、今の自分に出来ることはやり遂げました。これからも「釜石応援団」として、釜石とのご縁をさらに繋げていきます！

最後に、応援頂きました釜石や北Qの皆さまに心より感謝申し上げます！！